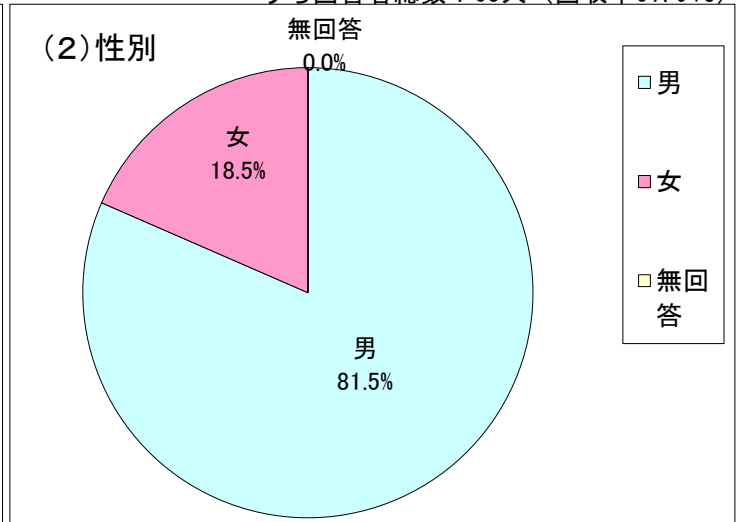
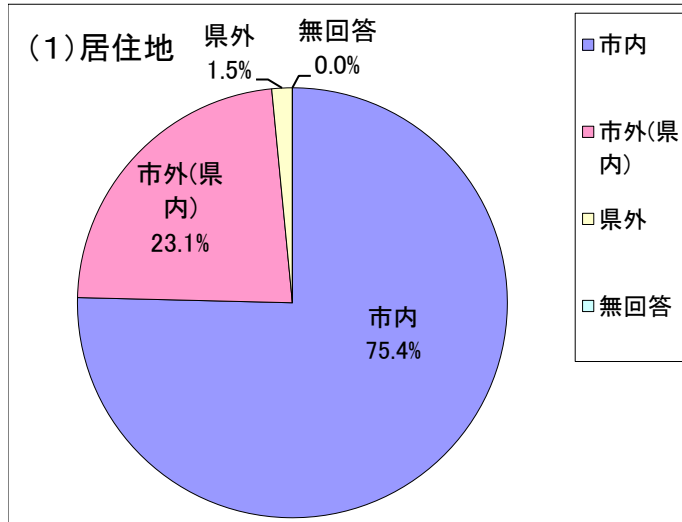


散居村の保全と活用シンポジウム【第2回】アンケート結果

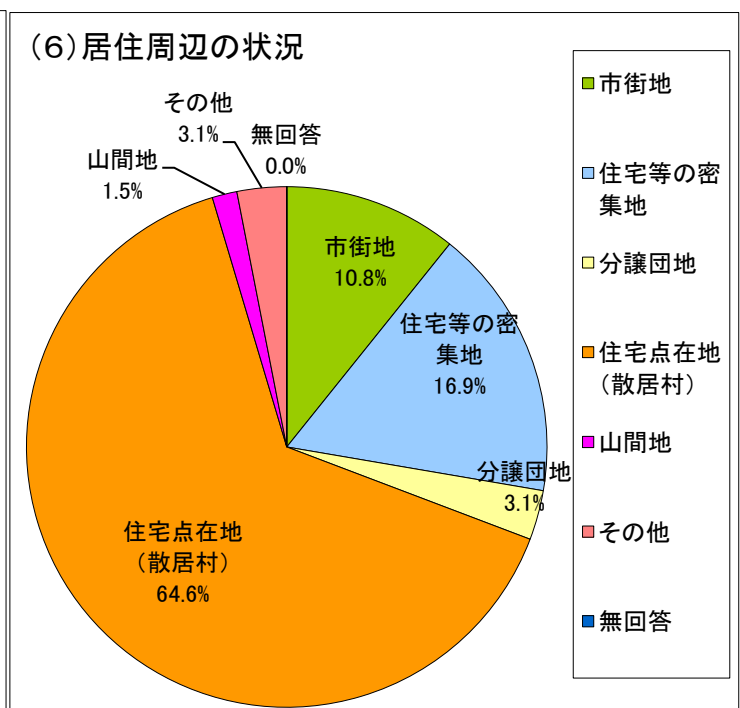
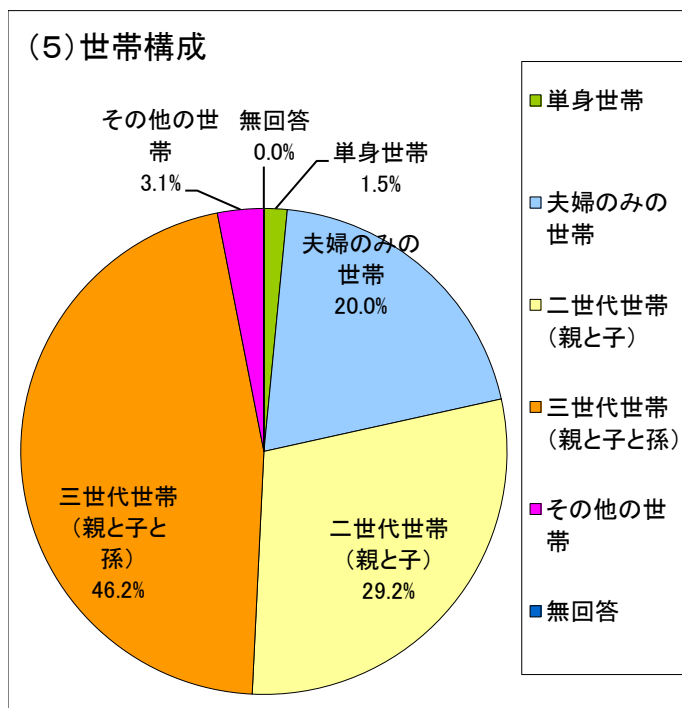
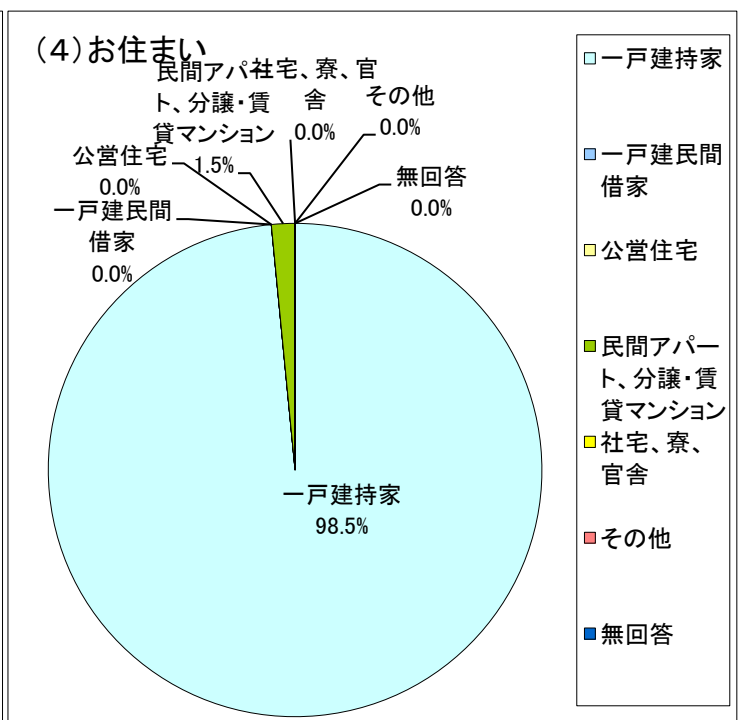
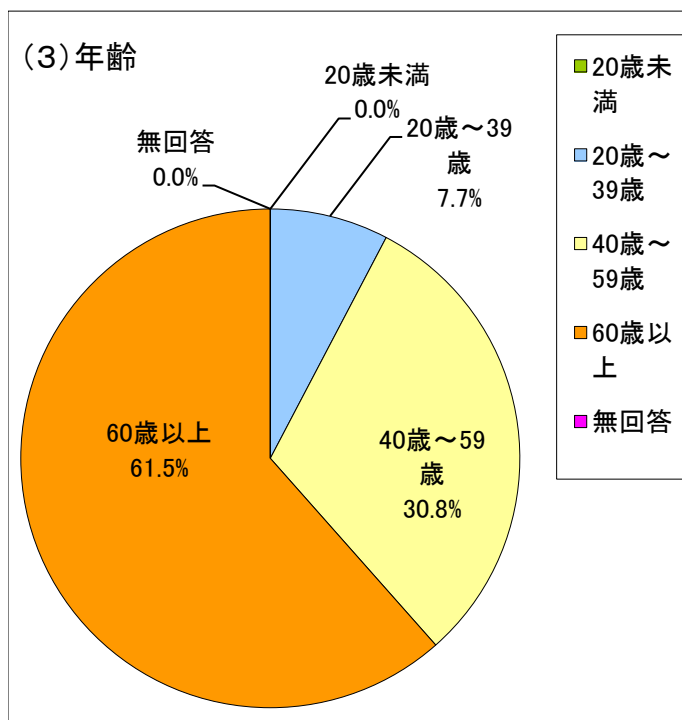
H24. 11. 25開催

アンケート配布数：105人

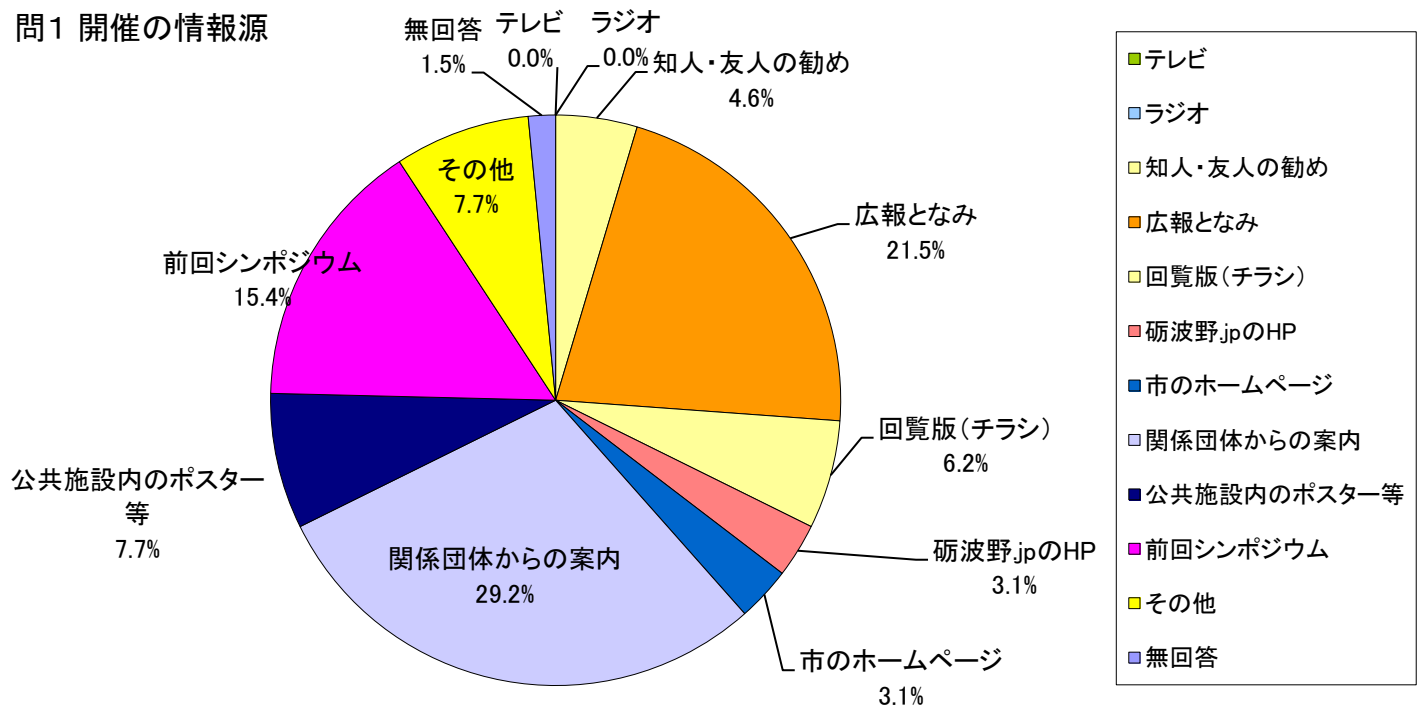
うち回答者総数：65人（回収率61.9%）



● 県外：埼玉県(1名)

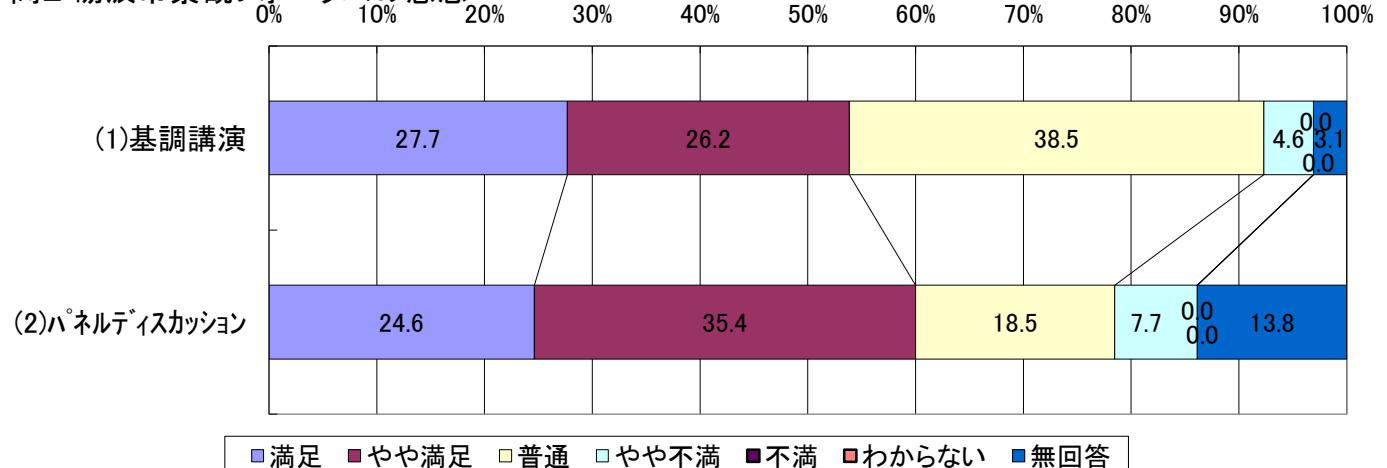


問1 開催の情報源



●その他：Face book(2件)、無記載(3件)

問2 砺波市景観フォーラムの感想



●上記の理由について

(1) 基調講演

- ・スライドを使って、具体例を挙げて説明されたのが良かった(他2件)
- ・良い話だったが、資料の配布が無く、記憶に残らない(他1件)
- ・現在に至った苦労話などが聞きたかった。例示で終わった(他1件)
- ・新しい観点に気づかせていただいた(他1件)
- ・砺波とは環境が随分異なる(他1件)
- ・環境は違うが、実践されている例として参考になる(他4件)
- ・全国に成功例がたくさんあることを実感できた
- ・思ったほどメリハリが感じられなかった。でも頑張っているのは評価します(他1件)
- ・意識の高いリーダーの存在が大切だと感じた
- ・地域のまとまりがすごい
- ・地域に根ざした具体的事例の紹介が良かった
- ・地域活性化への具体的取組みや情報が参考になる
- ・空き家活用の具体的事例が参考になった(他1件)
- ・空き家の利活用についてのノウハウを知ることが出来た
- ・空き家の有効活用に、地域がボランティア活動を通じて積極的に取組まれていることを伺い、大変参考になりました
- ・福住の空き家等を上手に利用した、地区の伝統行事等を地域を守りながら、若者にも新たなつながり、絆を持つような取組みが感動した
- ・高校、大学との連携した活動が良い。空き家対策や活用方法が良い
- ・条例まで作って規制をかける篠山市の成功が続くかどうかこれからのことであろう
- ・過去40年余り関西に在住中に篠山城へ2、3回訪れたこともあります。その後の変わり様が良く分かりました

(次ページへ続く)

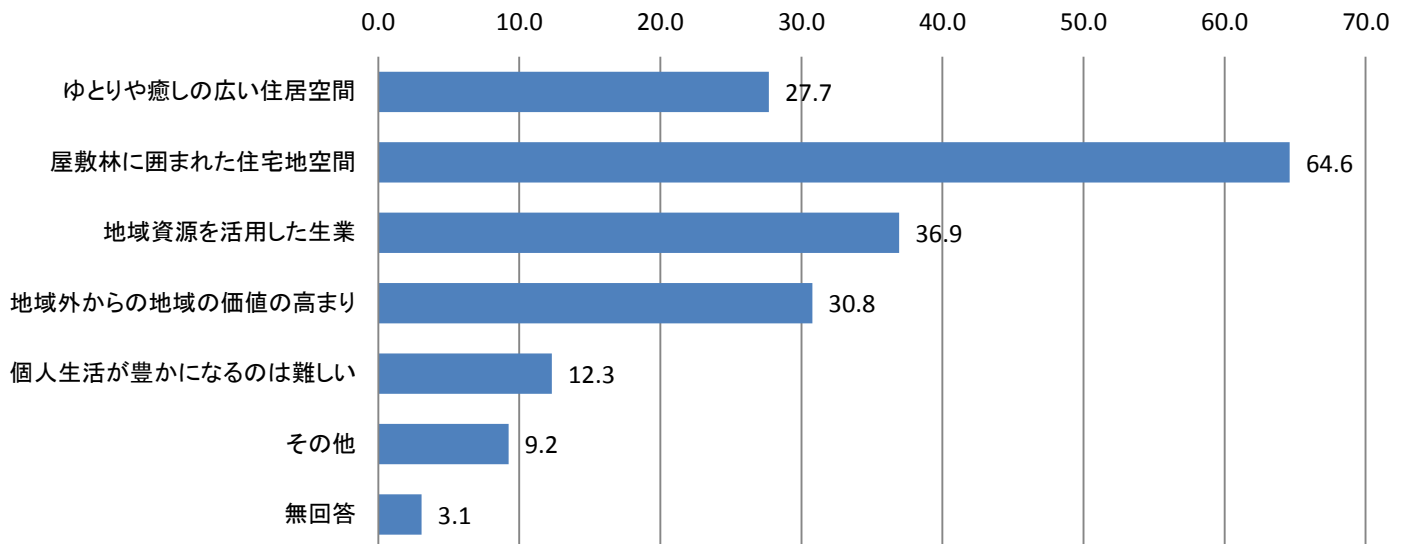
(前ページ続き)

(2) パネルディスカッション

- ・一人ひとりの発言が長すぎる。もう少し端的にまとめた発言をして欲しい
- ・パネリストとコーディネーターの意思疎通が課題である
- ・意見あるもマイク廻らず(砺波市は、住み良いまちより帰りたいまちに)
- ・横山さんのお話が特に良かった。個性を活かし地域が主体となる必要があるとのご意見は同感した(他2件)
- ・北村さんの東京での経験からの発表が良かった
- ・若い方の意見が聞けた。もっと具体的な意見も聞けると良い
- ・知らないことがたくさんありました。特に外から人を呼ぶことについて
- ・発想がそれぞれ個性があり、ドキリとした内容もあった。今後の取組みに実に良いヒントをいただきました
- ・多面的な意見があり、今後を考えるためになる(他4件)
- ・明確な提言が多くあった
- ・つまらない金儲けの話より、生活を意識した提案が主で良かった
- ・ヒントは多くあったが、議題そのものが難しく、実行性のあるアイデアは出にくいと思う
- ・パネルディスカッションのタイトルに関連した多岐にわたる提言がなされましたが、結論としての方策や具体的な方向性が示されず、少々消化不良といった印象を受けました
- ・人口増、建築、観光、空き家、生活(農業?)、ごった煮でなかったか。散居景観保全をまとめられないか(もともと、そこに難しさがあるのだが)。「水」の切り口も出てきて、またややこしくなったか?
- ・生活様式の変化の中で散居村をどうやって守っていくか、生かしていくかが分からない
- ・散居村の要素のうち、何を保全し、活用するかが見出せなかった
- ・市民が砺波を好きになってもらうための政策や方策を考えさせられた。地域で取組む方策も必要(他1件)
- ・砺波が金太郎飴にならないことが必要と感じた。散居村の維持が高まるよう希望する
- ・達成できるような分かりやすい目標作りが大切だと思う
- ・自ら自信を持って、良くする努力が必要と感じた
- ・地味な活動でも、出来ることから始めるのが良いと思います
- ・兼業農家を主体にした散居村の経済性がない
- ・住宅建築の変化が判明した
- ・初めてこのようなパネルディスカッションを用いて、砺波市でなければ出来ないことの内容を中心に行っていった方が良い方向に動くような気がした

問3 個人の生活を豊かにする取組み(2つ以内回答)

単位: %

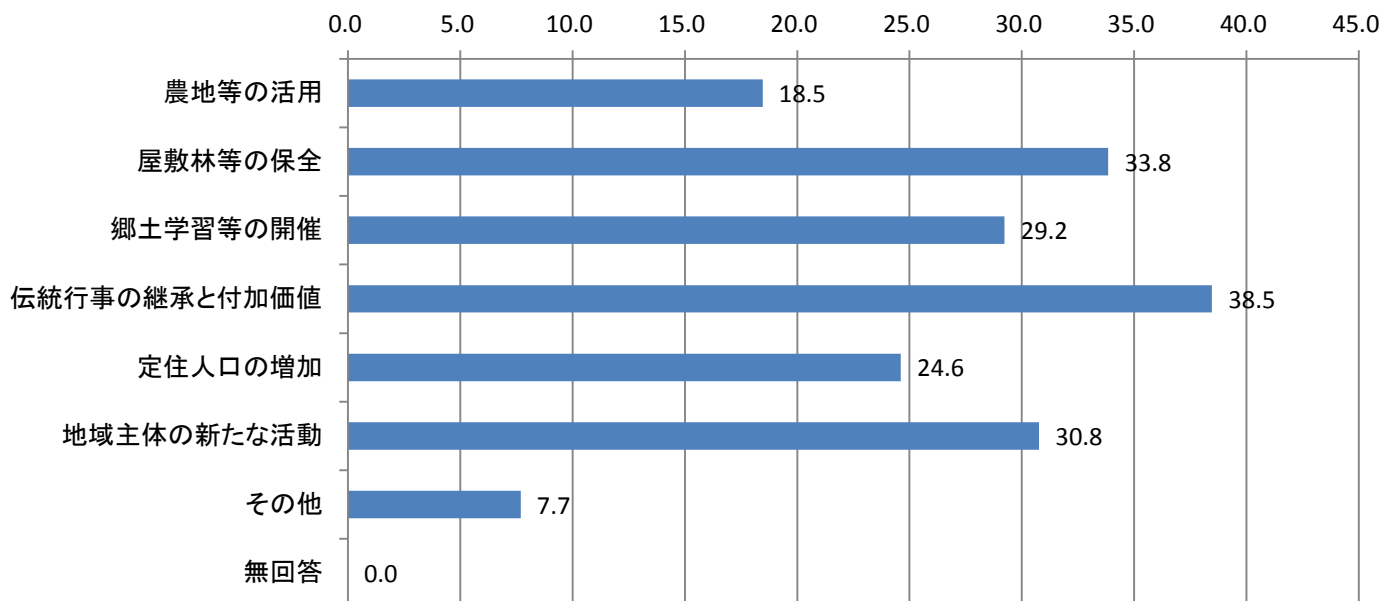


●その他の意見:

- ・女性と子供の声を自分の家庭からしっかり聞いて、彼らを豊かにすること
- ・その地域の住民が共通の価値観を持って事業を推進することが大切
- ・多少貧しくても豊かであると感ぜられる市民の価値観。地域資源の活用も、それで十分、今の収入が得られることが条件である
- ・自然の中で暮らすことそのものの豊かさに気づくこと。豊かさの質の転換についての啓発が必要
- ・人とのつながりをどの様に持っていけるか
- ・現代の生活に合わせ、自分が何をしたいか考えて(人には寿命があり)、生活を少し整理することで、自分の生活が豊かになるのでは? 守るだけでなく、少し変化させることも要るのかなと思う。散居を維持するには、やる事が多すぎるので、守りやすいように削ることも必要かと思う

問4 地域を活性化する取組み(2つ以内回答)

単位: %

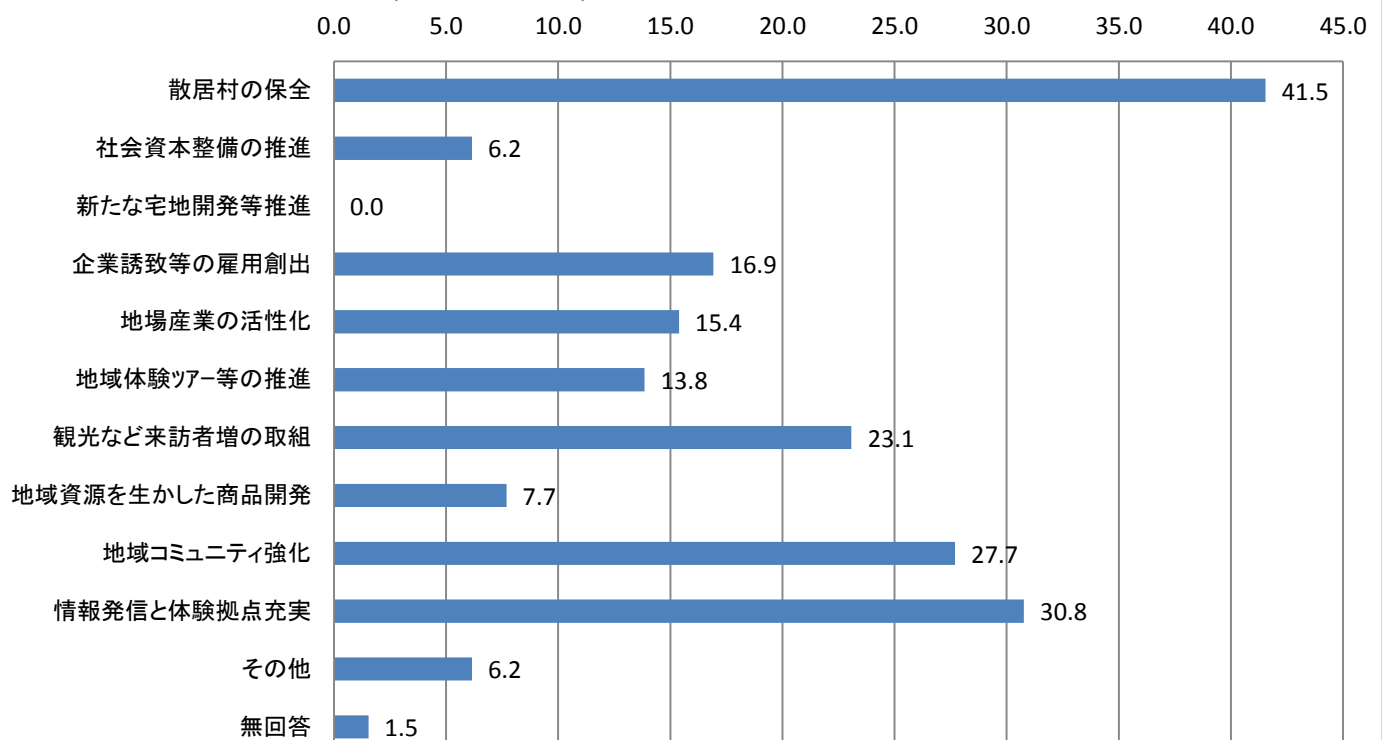


●その他の意見:

- ・若者の居心地良いまち
- ・女性と若者を地域の会合に参加させる
- ・青年会や婦人会への強制加入は、多様化社会の現在にはなじまないため、地域貢献活動を行う市民団体やNPO法人の育成にシフトすべき
- ・生活の糧を得られる仕組みづくり
- ・空き家へのI・Uターンの誘致(篠山市の方式、自治会主体の活動)

問5 市全体の活性化の取組み(2つ以内回答)

単位: %



●その他の意見:

- ・地域資源として人を活用
- ・地域活性化の仕組みづくり
- ・民家改築のローコスト化の推進
- ・散居村の特長を生かした産業振興及び製品のブランド化(砺波平野の4市共同で散居村ブランドを構築する)

問6 散居村を生かすための配慮すべき事項(自由記入)

<意識の高揚・啓発活動等>

- ・ 散居村に住んでいることに誇りを持って、今後、生活していくことが第一【60歳以上・男】
- ・ 多くの方に危機感を認識してもらうこと【40～59歳・男】
- ・ 住民が散居村の価値を自覚することがまず必要。多くの人がデメリットばかりしか目を向けていない【20～39歳・男】
- ・ 継続して関心、知識を持ち、行動すること。情報共有と方向性を定めて【40～59歳・女】
- ・ 住んでいる人の話を真剣に聞け。泊りがけで先祖代々からの言い伝えを家族そろった場で聞け【40～59歳・男】
- ・ 居住者の高齢化、引き継いでいく住民の意識の高揚等が難しい【60歳以上・女】
- ・ 外部から見た散居村について、さらに多くの意見や感想を聞くこと【60歳以上・男】
- ・ 保育所、幼稚園、小学校など、子供の頃からの意識付けが重要【60歳以上・男】
- ・ 小中学校に自然(郷土)の素晴らしさを伝える【60歳以上・男】
- ・ 人づくり、地域を良く知るための教育活動が重要ではないか【20～39歳・男】
- ・ 生かすとは？生きること？砺波市に生まれた子供達にどう伝えていっているか、そしてどう伝えたいかを大人がどう考えるのが問題【40～59歳・女】
- ・ 藩政時代は、加賀藩の影響が大きかったことをアピールすべき【60歳以上・男】

<周辺景観への配慮>

- ・ 景観に配慮したものにすべき【60歳以上・男】
- ・ 建物の高さの制限、景観に合わせた建て方を推進していく【60歳以上・男】
- ・ 建築物を建てる時の位置、デザインに是非気をつけて欲しいです【60歳以上・女】
- ・ 現在、なかなか散居村の風景・伝統等を昔のまま維持していくことは難しいことですが、我々60代になって都会から戻ってきて初めて、少しずつその良さに気づいてきたところです(8ヶ月余りの間で)。風雪等に強い建て方などを工夫して、出来るだけ建物の外観の色合い等、落ち着いた風にして、住み良い環境づくりが大切かと思います【60歳以上・女】
- ・ 新規の開発による構造建物不要。目立つ構造物には緑化することを義務化すべき【60歳以上・男】
- ・ 下水道完備、景観条例についての方向性【60歳以上・男】
- ・ 田園風景を守るために、除草剤を使用しない草刈・除草を実施するべき。緑が多くなることで散居村も守られる【40～59歳・男】
- ・ 自然を生かす【60歳以上・女】
- ・ 自然環境が豊かなうえに砺波平野の中央に位置し、交通の要所にある砺波市は、若い人にも魅力あるものであり、積極的な企業誘致により益々の発展が期待されます。くれぐれも「虫食い状態の宅地開発や工業団地造成」とならないよう、市が中心となって散居景観に重視した計画的な土地基盤整備を推進していただきたい【60歳以上・男】

<伝統的家屋の利活用>

- ・ アヅマダチを壊さないこと【60歳以上・男】

<空き家対策>

- ・ 実質的に空き家状態になっている家が多い様なので、空き家状態が長くなり、荒廃する前に早期に対策を行うことが重要【60歳以上・男】
- ・ 敷地面積、屋敷面積が大きい例が多く、単なる移住では難しい【60歳以上・男】

<定住化対策>

- ・ 地元に戻ってきやすい雰囲気作りが必要【20～39歳・女】
- ・ 何世代も同居できることが一番効果的と思われる【60歳以上・男】
- ・ 同居世帯を増やす施策が必要【40～59歳・男】
- ・ 三世代同居を続けていけるよう、努力したいと思いました【60歳以上・女】
- ・ 定住人口の増加には、①仕事がないとだめ⇒企業誘致、②人がいないとだめ⇒大学誘致、が必要【60歳以上・男】

<観光資源としての活用>

- ・ 空き家のアヅマダチの中を細分化した内装にして、滞在型・体験型の集客を考える(例:鮎のテンカラ釣りや鮎の塩焼き体験等)【60歳以上・男】
- ・ 観光面からの他地域との人々の交流が必要【60歳以上・男】

<農業の活性化>

- ・ 農業も何とかやっていける業とすることが必要【40～59歳・男】
- ・ 農業を強化する努力【60歳以上・男】
- ・ 農地の保全、農業の活性化(特産物の開発)に最大限力を注ぐ【60歳以上・男】

(次ページへ続く)

(前ページ続き)

＜農業の活性化＞

- ・車を運転しなくても、高齢者が定住できる様な移動手段を提供する仕組みづくりも大切である【60歳以上・男】
- ・行政のできるだけの予算配慮【60歳以上・男】

＜課題点の整理＞

- ・現実に散居の中で生活する事は大変です。日々一人だけでは出来ない事が多い生活を、どう共生していけるのかから、再考していく事だと思います【40～59歳・女】
- ・「散」と「居」の何を、どの様に、誰が繋ぐのかが課題では？【40～59歳・女】
- ・保全が大変であり、住みにくいところもあるとすれば、その問題をしっかりと洗い出し、改善点に知恵を絞ることが必要【60歳以上・女】

＜その他＞

- ・そのまま散居村を残すのではなく、良い部分を生かして改良していくことが必要【20～39歳・男】
- ・砺波地方は保守的な地域であり、伝統が逆に個性を縛り、生活しづらくなっているのではないか。これまで通りを守ることも大切だが、柔軟性も加えて伝えていけば良いのではないか。『保全』を前面に出すよりも、『利点』を前に出すようにして考えていけば良いのでは？どんな良いものでも悪いところもあるはずなので、保全というとこれ以上になれないような気がします。利点を考えると自然に活用が出てくるのではないか【40～59歳・女】
- ・南砺市、小矢部市、高岡市、射水市とも協調して活動しなければ効果は薄い【60歳以上・男】
- ・市街地を栄えさせて元気を出し、散居を保全する【40～59歳・男】
- ・散居村を生かすことは、そこに住む者の目線が前提でなければならない。観光や交流人口の拡大は、魅力のある地域(合掌造りの保存地区)に限り、保全するべきである【40～59歳・男】
- ・(高い)屋敷林のない生活を考えて欲しい【60歳以上・男】

＜シンポジウムの感想＞

- ・そもそも活性化と散居村の保全は両立するのか？この辺に無理があるのか？その辺をすっきりさせないと、いつまでも堂々巡りになるのでは？市民が自ら悩むところに意味があるのかもしれない【40～59歳・男】
- ・予算の関係か、このシンポジウムの案内パンフが暗い感じで良くないと思います。再考しては？【60歳以上・男】